

中国の電力事情

上海市中心気象台は、7月3日（日曜日）午前9時ごろから高温警報を発令。市内中心地では、38度を超え、この夏一番の猛暑となった。市内商業施設では、猛暑対策としてエアコンや扇風機、水着など夏商品を求める客が賑わい、あるスーパーのデーターを見ると、アイスクリームの売上げが平日の10倍となった。

上海電力会社が発表した予測では、今夏、上海電力網のピーク時における電力負荷は昨年比7%増の2,800～2,850万kwに上るといふ。電力不足量は160～210万kwになる。電力不足になった時点で、工業用団地内の企業に対して、停電または、一部停電が実施すると同時に、場合によって、非工業企業（デパート・オフィスビルなど）にも停電する可能性がある。もし、デパート・オフィスビルなども停電されると、経済への打撃が大きく、上海政府はじめ各関連業界が困っている。

今、上海だけではなく、中国全土で猛暑が続き、停電が相次ぎ、連統一週間停電している工業団地もある。電力事情がかなり悪化している。

四川省電力会社は、夏期の電力消費予測に関する記者会見を開催し、「成都市、樂山市などの電力消費の伸びが激しい地区では、ピーク時と一部の地域で電力不足となる。極端な気候や自然災害に遭遇する場合は、その他の地域でも電力制限を実施する可能性があり、厳しい状況を迎える」と説明された。

浙江省は、中小企業が集中している地域で、現在一週間に既に三日ぐらい停電している。残り四日間も夕方6時～深夜0時まで間に、50%の電力しか使えない状態。納期に間に合わせるため、各企業は、発電機を購入し、何とか対応している。ただし、自社発電になると、生産コストがかなり高くなり、各企業が苦戦している状況。

安徽省は、人件費が安いという利点で、この数年、沿岸地域の企業がコストダウンしたいため、安徽省に移転して来ました。昨年からは、停電が酷く、今年もこの状態が続いている。卸センター組合員と取引している企業に聞くと、停電すると、二週間連続停電になり、工場を閉鎖するしかないという。

中国経済が発展すると同時に、電力事情が確かに悪化している。今中国全体では、経済構造の合理化、循環経済、環境保護など10大プロジェクトを通じて省エネ・汚染物質排出削減目標を達成させることが各地自治体にとって、一番重要な課題になっている。

2011年7月11日

上海代表処 蔡 徳栄

参考資料： J E T O R O 上海